遺志継ぎ再スタート

佐々木禎子さんの兄が「語り部」

「今ある命を役立てて」

広島・バーでの被爆証言会

平和記念公園の「原爆の子の像」のモデルになった佐々木禎子さんの話をする兄の雅弘さん（中央）
＝5日夜、広島市中区

広島原爆の日前日の5日夜、広島市中区のライブハウスで被爆証言会「原爆の語り部」が開かれた。毎月6日に被爆者らを招き市内の繁華街のバーで開かれる証言会の特別版。平和記念公園の「原爆の子の像」のモデルになった佐々木禎子さんの兄雅弘さん(76)＝福岡県＝が病気と闘った禎子さんについて語り、来場者は平和への思いを新たにした。

バーでの証言会は、肺がんのため7月に37歳で亡くなったオーナーの冨恵洋次郎さんが、客からの原爆に関する質問に答えられなかったのをきっかけに2006年2月に開始。ユニークなスタイルにさまざまな年齢や職業の人が集った。この日は、活動を引き継いだ広島を拠点に活動するシンガー・ソングライターHIPPY（ヒッピー）さん(36)らが再スタートとして開催した。

当時4歳だった雅弘さんは爆心地から1・6キロの地点で、2歳だった禎子さんと母、祖母の4人で被爆。白血病で入院した禎子さんは家族に心配をかけまいと、どんな時でも「痛い」と言わず、涙を流したのも一度きりだったと振り返り「思いやりのある子だった。みなさんも生きていることをありがたいと思い、今ある命を役に立ててほしい」と訴えた。

6年前から証言会に通う広島市中区の美容師八木美樹さん(32)＝今治市出身＝は「興味はあったが原爆について知らないまま大人になっていた。リアルな証言はドラマなどより衝撃が大きい」。ほぼ毎月参加している広島市安佐南区の公務員松本和紀さん(37)＝新居浜市出身＝は「なじみのバーでなかったら被爆者の話を直接聞くことはなかったと思う。今後も通いたい」と話した。（河端渉）

愛媛新聞 :朝刊 2017/08/06 面名:一社 ページ:005

(C) 愛媛新聞社 無断転載、複製及び頒布は禁止します。